

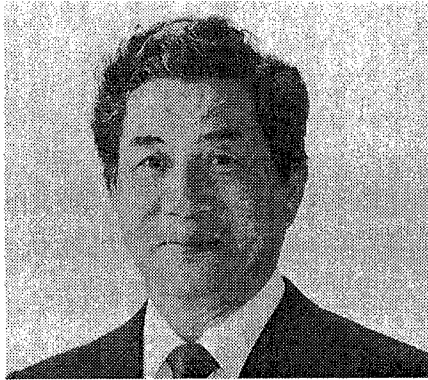
日本をキリストへ 協力

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
TEL 03-3291-5035 (総動員伝道内)

「神の教会に 奉仕する」

全日本リバイバルミッション主幹 滝元明



「あなたがたが他人のものに忠実でなかったら、だれがあなたがたにあなたがたのものを持たせるでしょう。」(ルカによる福音書十六章十二節)

伝道団体連絡協議会の機関誌「協力」の一面メッセージ原稿を書くようにと総動員伝道の姫井雅夫先生からされましたので書かせて

頂くことにしましたが、まず一つお詫びしておかなくてはなりません。それは自分たちの仕事、全日本リバイバルミッションの働きが忙しくて殆ど役員会にも出席していないことをお許し下さい。しかし私たちの地域教界では毎朝五時三十分より一時間早天祈祷会がありますが、その時、日本の伝道のために働いておられる各団体の働きの祝福を毎朝祈らせて頂いております。たとえば文書伝道のために、いのちのことは社、クリスチャン新聞、百万人の福音、マ

ルコーシユバブリケーション、リバイバル新聞、キリスト新聞、EHC、伝販、羊群社、プレイズ出版等が祝福されるようにお祈りさせて頂いています。

テレビ・ラジオ伝道、キャンパスクルセード等の伝道団体のためにもお祈りしております。なぜなら、これら団体の働きの祝福が、日本の祝福につながると信じているからです。

私は伝道者として、日本の色々な教会に招かれて巡回するようになって、もう四十六年にもなりました。私の伝道・教会は他教会を助けながら、自分に委ねられた教会を教会してきましたが、毎週のように多くの教会から招かれて奉仕をしているときに、ふと、他人の教会の働きばかり力を入れて伝道するより、もつと自分の教会の働きを優先させようと考えたときがありました。なるべく招きをお断りして自分の教会で働きました。しかしその年はあまり自分の教会は祝福されることはありませんでした。そんなとき、はじめに書きました御言葉が、私に語りかけられたのです。「あなたがたが他人のものに忠実でなかったら、だれがあなたがたに、あなたがたのものを持たせるでしょう。」

そのとき私は一つのことを知りました。他人の教会ではなく、神の教会に奉仕しているのだ。

それ以来全力をあげて色々な教会に招かれて伝道し、日本リバイバルクルセードをはじめ、甲子園球場で、東京の武道館で、今年はスーパーミッション2000東京大会を四十日間開催させて頂きました。これは日本の救いのためです。その働きにより、自分たちの教会も祝福されて成長いたしました。

二十一世紀は伝道団体がますます活動しなくてはなりません。この伝道団体を支援される教会は必ず祝福されると信じています。

主イエス・キリストさまの御再臨まで全力で日本の救いのために互いに協力して伝道してまいりましょう。

伝団協研修会報告

十月十六日から十七日、恒例の伝団協主催による一泊研修会が湯河原厚生年金会館にて行われました。今回のテーマは昨年に引き続き「コンピュータの活用」を入門・中級・上級コースに分け、それぞれに大変有意義な研修をさせて頂きました。講師の先生方、参加された方々、皆様のお祈りを心より感謝いたします。



「伝団協研修会に参加して」

小竹町聖書教会 北條和人

昨年に続き今年も講習会に出席しました。何とかしてせっかく買ったパソコンを使うことが出来るようにとの願いがあったからです。せっかく買ったパソコンがほこりをおぼえていたからです。期待をふくらませて出席しました。初級、中級、上級と分かれて行い、私はもちろん初級です。初めは壊れ物にでもさわるようにマウスをさわりました。マウスを自由に操作するにも時間を要しました。二日間の講習の末、目の前に自分のイメージのような画面が映し出される度に「オー！」と言う声がり、皆画面に釘付けになりました。同時に、操作して自分に

も出来そうだという思いにもさせられたひとときでした。六十歳の手習い、いかがあいなりますやら、お楽しみといったところです。

ご指導下さった先生方ありがとうございました。ほこりを払ってやってみようと思っっているところです。

「一泊研修会に参加して」

(財)日本聖書協会広報/募金部 森口生正

研修会では「インターネットとホームページ」のグループに入り、グループの皆が日頃の疑問、不安などを思いのままに出し合い、仕事の中でインターネットを大いに活用しているという意欲に燃え、レクチャーを聞く態度は真剣そのものでした。インターネットの構造、サーバー・プロバイダーへのアクセス、ページの作成、Eメールの有効な活用等、基礎的なことから応用に至るまで内容は盛り沢山でもっと時間がほしいという感じもありました。しかし会場は湯河原一の最新設備を誇るという厚生年金会館で、ゆったりとした静かな環境で研修全体はとても充実していたと思います。この研修会を準備された姫井先生をはじめ伝団協の皆さまに心より感謝申し上げます。今後の伝団協のお働きの上に神様の大きいなる祝福と力づけがありますようお願い申し上げます。



「コンピュータ研修会に参加して」

ブリッジス・フォー・ピース日本支部局

石田陽子

ハレルヤ！主の尊い御名を崇めます。

伝団協主催のコンピュータ一泊研修会に参加させて頂きましたが、研修だけの目的だけでなく、開催地が湯河原の素晴らしいホテルでもあったことで、良き休息の時となりました。私は日頃から文書のレイアウトについて学びたいと願っていたので、その方面でも役立ちそうなパワーポイント（プレゼンテーションソフト）のクラスを選びました。最初は軽く、パワーポイントの基本的な使い方から学んでいくのだろうな...と思っていましたら全く予想と違っていました。講師の能城一郎先生は、メカ音痴の私とその名も今まで聞いたこともない機材類を使って「パワーポイントを使つてどのようなことができるか」という応用編から入っていきました。またインターネットを中心に、これからのマルチメディアの流れがどのように発展していくか、それをキリスト教界が伝道にどのように応用していけるのかの可能性をお話下さいました。

巷ではIT、ITと騒がれていますが、今回の学びを通して日本のキリスト教界も時代の流れにのって伝道にコンピュータの技術取り入れていくことが必要不可欠になりつつある、ということを強く感じました。私共の活動でも役立てていきたいと思っています。これからクリスチャン界でもこのようなコンピュータの学びの機会がどんどん増えるように、と心から願っています。

伝道団体紹介

日本ミッシオン映画部とは

代表 高原幸男



日本ミッシオン映画部は病院伝道から始まりました。昭和三十三年五月、当時は結核が流行し、今のガンのように恐れられ死を覚悟する病でもありました。入院患者はひたすら安静と気分転換で癒す時代でした。ベッドの中では必然的に自分を回顧し、将来に思いをはせる状態に多くの方が置かれていました。娯楽もテレビが始めた当初で、ラジオが多く聞かれていました。日本ミッシオンが伝道をその方々をターゲットに絞り、ラジオ伝道、読物など様々なアプローチを持って多くの人々が救われていきました。

七年が経過し、新しい分野で何か出来ないものであろうかと考えている時、東京でムーディ科学映画委員会が設立され、日本ミッシオンが関西で行うことに導かれました。そこに私が献身させられ、日本で初めて映画伝道専従者として導かれました。娯楽が今ほど普及も無く、映画が一番の楽しみのような時でもありましたので、病院の中は大賑わいでした。やがて教会でも、私共に映画上映してもらえることが知らされた。それから教会へ出向いて上映会が行われ、「映画と演奏の夕べ」などと宣伝も行われ、一人が走り回るだけでは済まない状況になり、

そこから貸出しも始まり、映画技術講習会が行われていきました。十数年で関西だけで四千五百人を超える方々が上映技術認定書を習得され、これらの方々から映画伝道者になっていきました。

映画の種類も増え、私共でも映画制作を行い、全国で一つのムーブメントのように広がり、多くの方々から救われていきました。この映画伝道がきっかけで教会に導かれた方々は多く、牧師になった方も多くおられます。

しかし時代は情勢を変化させ、ブームは消える時があります。やがて伝道方法もカセットからビデオが登場し、大衆伝道から個別伝道へと移り、そして現代はインターネットから情報技術革命が行われようとしています。今から教会はどのように伝道を考えていくのでしょうか、教会が関わる方法はあるのでしょうか、暗中模索とも言える時です。しかしテレビの情報も仮想空間の世界です。人間は必ずやりアリティが求められていきます。教会の果たす役割はこのコイノニアなるリアリティを提供できる最高の場であるはずで、そして述べ伝える者がいなければ、誰も福音を聞くことが出来ません。

昨日も今日も変わることがない永遠の主キリストの法則がある限り、伝道方法は変わらざ「見せて聞かせて」の証しは何より必要であると思つてます。視聴覚伝道は、見せて聞かせる証し伝道です。ぜひカタログをご請求下さい。映画三百種、ビデオ二百種、スライド三百種が用意されています。

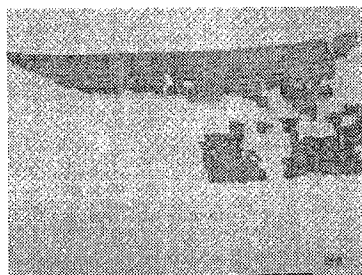
死海写本(断片6点)日本初公開への道

(財)日本聖書協会広報募金部 竹内利光

千九百四十七年、イスラエル死海沿岸のクムラン洞窟で発見されたおびただしい写本群は「死海文書」と呼ばれ、二十世紀最大の考古学

的発見と言われています。その中、ヘブライ語旧約聖書写本の出現は、紀元前二世紀から一世紀と約二千年前に書かれたことが実証され、完全なものとして残されていたそれまで最も古いレニングラード写本(千八百年)を約千年以上も遡ることになる驚異的な出来事となりました。そしてキリスト降誕二千年の今秋、「死海写本」日本初公開に至りました。二千年の時を超えて甦る「神のことば」。この「死海写本」日本初公開への長い道のりを昨年四月十二日に立ち上がった「東京大聖書展実行委員会」は実行委員長に森一弘司教(前カトリック東京大司教区補佐司教)、実務委員長に峯野龍弘牧師(ウエスレアン・ホーリネス淀橋教会主管牧師)を選出し、事務局を東京YMCAにお引き受けいただき並木信一事務局長(東京YMCA副総主事)のもと、「有楽町そごう」会場変更を初め、幾多の困難を乗り越えきました。

当初から「死海写本」日本初公開への道は、厳しく、殆ど不可能ともいえる中で多くの問題がクリアされてきました。この恵みを覚え、開催に携わった実行委員、ボランティア、ご関係いただいたお一人おひとりにただただ感謝するばかりです。必要な時に、必要に応じておさわしい方々が立てられました。いかにここまで多くの祝福とお恵みと、関係各位のお支えをいただいていたか、準備が進められてきたかを皆さまに覚えていただき、今回の「死海写本」を、是非ともご来場賜り、ご覧いただければ関係者一同望外の喜びです。



「伝団協」加盟団体「ニュース・フラッシュ」

● K G Kでは、長い間懸案だった宗教法人格取得のために、この秋から本格的に作業に入ることができそうです。K G K運動が、団体としても整えられる第一歩です。

(キリスト者学生会・K G K)

● リバイバルの炎は世界各地に広まり、みことばはますます必要とされています。数年前までは知り得なかった速さで神の国が拡大するのに伴い、これまで以上の努力で前進したく思います。

(新生宣教団)

● 第三十二回「日本伝道の幻を語る会」は、「二十一世紀の日本伝道と教育」をテーマに、主講師として、金井信一郎師と李仁夏師をお招きし、盛会の内に終えることが出来ました。

(日本キリスト伝道会)

● 「善隣共生」(善い隣人になって共に生きよう)という理念で、教会に仕える群れとしての日本国際飢餓対策機構。現在は約一千万人が飢餓状態にあるといわれているエチオピアにも緊急援助スタッフを派遣、共に生きる努力をしています。

(日本国際飢餓対策機構)

● クリスマスに「J E S U S」TV放映予定です。それに関連して中央線、西武線での車内ポスター、J E S U Sホームページ作成、教会の動員に取り組んでいます。DVDも近日発売!

(日本キャンパスクルセード・フォー・クライスト)

● 二千二年四月から、教会音楽学校、現代賛美学校、聖書演劇学校をJ T Jセミナーの中に開校します。通信制でも学べる方法を確認予定です。

(J T J宣教神学校)

● この夏、スイスで行われた牧師先生のための修養会は、ご夫妻を含む五名が参加、大自然の中で主に触れられ、またご夫妻の間に新鮮な風も吹き抜けました。

(ユース・ウイズ・ア・ミッション日本)

● 通常のテレビ放送以外に、月刊デイポジションガイド「clay(クレイ)」を発行しています。十月から全米で、週二回、衛星放送「スカイ・エンジェル」を通しての放送を始めました。(英語字幕付き)

(ハーベスト・タイム・ミニストリーズ)

● いのちのことは社伝道グループは今年、創立五十周年を迎え、その記念式典を十月六日東京で開き、創立者のマクビティ宣教師ら、OBを始めスタッフ、来賓三百人が集まった。

(いのちのことは社)

● ホープオブザワールド(世界伝道者会議、ハノーバー万博、クロアチア宣教)に参加した二十五名は、その奉仕を高く評価され無事帰国しました。また、J C G Iの地域別研修移

行後、初の卒業生二十一名を十一月に輩出します。

(ライフミニストリーズ)

● 二千年夏、沖縄から北海道まで、医療関係者キャンプ、高校生キャンプ、いのち特別講演会等でのちの尊厳と性の啓蒙活動、会の働きによって未婚女性等連続受洗中。

(小さいのちを守る会)

● 十、十一月には二つのクルセード、十一月十二月では毎週二日間特別教職研修会・教会研修会、七十四周年の記念大会、百周年記念大会、五十周年記念大会でも奉仕します。十二月には二つの大きなクリスマス集会があります。

(日本キリスト宣教会)

● モンゴル語とビリビノ語点字聖書データ製作進行中。使用済みカセットテープを集めてフイリピンのリソース・センターに贈る。「光の募金」プロジェクト準備中。

(内外盲人ミッション)

*ゴスペルワールドは、左記に事務所を移転しました。

〒二六九〇〇七三 新宿区百人町一六六三三二〇一
TEL 〇三三三三八七六六 FAX 〇三三三三八七六八

発行日 二〇〇〇年十一月三十日

発行者 村上宣道

編集者 萩生田充